

2020年度スポーツ庁委託事業

2020年度「Special プロジェクト 2020（特別支援学校を対象とした全国的なスポーツ・文化大会開催事業）」
「第5回全国ボッチャ選抜甲子園」成果報告書

2021年3月
一般社団法人日本ボッチャ協会

本報告書は、スポーツ庁の委託事業として、一般社団法人日本ボッチャ協会が実施した2020年度「Specialプロジェクト2020（特別支援学校を対象とした全国的なスポーツ・文化大会開催事業）「第5回全国ボッチャ選抜甲子園」の成果をとりまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

1 事業目的

ボッチャは、子どもから大人まで障がいの有無に関わらず楽しめる競技として、全国的に人気が高まってきている中、本事業は全国の特別支援学校および特別支援学級等に通う児童生徒が憧れる、日本一の大会として発展していくことを目標としている。

その他、大会出場をきっかけに、全国の特別支援学校および特別支援学級等に通う児童生徒が生涯にわたってスポーツに親しむこと、日本ボッチャ選手権出場や日本代表選手として活躍することを目標として「競技」としてボッチャに取り組むこと、また若手選手の発掘育成につなげることを目的に開催している。

回を重ねるごとに、本大会出身者が日本代表選手に選ばれていることもあり、全国の特別支援学校および特別支援学級等に通う児童生徒の皆さんにとっては、本大会出場がパラリンピックの日本代表選手を目指すことができる第一歩としての大きな目標の一つとなっている。

2 実施日程および会場

日程：予選会 2020年2月8日(月)～12日(金)

決勝大会 2020年3月6日(土)

会場：予選会は各学校の体育館等で課題に取り組んだ様子を、動画に納めてクラウドにアップする。決勝大会は、決勝大会に残った3校と港区スポーツセンターをオンラインでつないで開催。

3 事業の実施体制

今大会は大会実行委員会を立ち上げ、外部と連携しながら運営した。

- ① 競技に関わる運営：実行委員会（特別支援学校関係者含む）
- ② 大会式典等演出に関わる運営：株式会社ジエブ
- ③ 共催団体：公益社団法人日本理学療法士協会
- ④ 協会協定大学：順天堂大学・杏林大学
- ⑤ オンライン配信にかかる運営：株式会社文化工房

4 実施方法

今回の大会は、コロナ禍ということもあり、大会の開催方法について実行委員会で協議を重ねた。中止にすることもできたが、新型コロナウイルスの影響で様々な大会等が中止となり、子どもたちが目標を見失いかけている中、このような時だからこそできる形で開催することが我々のミッションとし、オンラインでの開催に変更をした。

競技方法は、以下の通りとした。

事前に、エントリーした学校に対し、オンライン説明会を開催した。

- ① エントリーした学校が自分たちの学校で課題に取り組む
- ② 課題に取り組む様子（動画）と結果を事務局へ送る（クラウド上にアップ）
- ③ 予選会の結果については、送られてきた動画と記録用紙を、実行委員会の競技担当が慎重に審査し、決定
- ④ 審査結果に基づいて、結果発表
- ⑤ 上位7校が満点で同点だったため、さらに順位決定戦を行い、上位同点の場合は、決勝大会へ進む3校を決定する順位決定戦を行った
- ⑥ 順位決定戦は、新たな課題に挑戦し、再度動画と結果をクラウド上にアップする
- ⑦ 順位決定戦の結果を審査し、上位3校を決定
- ⑧ 3月6日に上位3校をオンラインでつなぎ、その場で出された課題に同時に取り組んで、勝敗を争い順位を決定する

5 エントリー校について
48校50チームのエントリーがあった。

No.	地域	都道府県	学校名	チーム名
1	北海道	北海道	白糠養護学校	Official 白糠 ism
2	東北	青森県	八戸第一養護学校	ミラクルブレイブ∞ (エイト)
3		岩手県	一関清明支援学校中等部	DREAMS
4		岩手県	盛岡となん支援学校	トライアロウズ
5		山形県	ゆきわり養護学校	THE YUKIWARI 4
6		福島県	郡山支援学校	チーム郡支隊
7		関東	東京都	あきる野学園
8	東京都		光明学園	光明サンライズ
9	東京都		小平特別支援学校	小平プレミアムズ
10	東京都		鹿本学園	THE バンビーズ
11	東京都		永福学園	永福ファイターズ
12	東京都		花畑学園	HANAGAKU
13	東京都		府中けやきの森学園	けやっきーズ
14	東京都		墨東特別支援学校	墨東旋風 kids
15	東京都		町田の丘学園	Machioka Dreams
16	東京都		村山特別支援学校	村山フェニックス A
17	東京都		村山特別支援学校	村山フェニックス B
18	埼玉県		熊谷特別支援学校	くまとくエール
19	埼玉県		蓮田特別支援学校	蓮田ポッチャクラブ
20	埼玉県		蓮田特別支援学校	WKT
21	埼玉県		宮代特別支援学校	スカイ
22	千葉県		桜が丘特別支援学校	King of Cherry Blossoms
23	千葉県	船橋夏見特別支援学校	千葉県立船橋なつみ特別支援学校	

24		茨城県	下妻特別支援学校	下妻特別支援学校
25		茨城県	つくば特別支援学校	One for all All for one Tsukuba
26		茨城県	水戸特別支援学校	すいとくふれんず
27		群馬県	あさひ特別支援学校	Sun Rise
28		神奈川県	相模原中央支援学校	ボッチャキング (BOCCIA KING)
29	東海	愛知県	一宮特別支援学校	サザンクロス
30		愛知県	小牧特別支援学校	小牧特別支援学校 Brex
31		愛知県	豊田特別支援学校	Clover
32		愛知県	豊橋特別支援学校	とよまつSSB
33		静岡県	静岡南部特別支援学校	NAMBU ライオンズ
34		静岡県	東部特別支援学校	For Dream
35		三重県	度会特別支援学校	WATARAI KHNT with わたら いおん
36	北陸	石川県	いしかわ特別支援学校	TEAM I
37		富山県	高志支援学校	チーム Koshi
38		富山県	富山総合支援学校	One team Tomiso5
39		福井県	福井特別支援学校	福井特別支援学校
40	関西	大阪府	茨木支援学校	茨木支援学校
41		大阪府	光陽支援学校	TEAM 光陽
42		大阪府	藤井寺支援学校	藤井寺支援学校
43	中国・四国	鳥取県	皆生養護学校	Pure な Winner ♪
44		広島県	広島特別支援学校	Hirotoke
45		香川県	高松養護学校	うどん4玉
46	九州・沖縄	福岡県	直方特別支援学校	Nogata Star
47		長崎県	諫早特別支援学校	諫ジュニ・ハイ
48		長崎県	佐世保特別支援学校	Sasebo BARGERS

49		宮崎県	延岡しろやま支援学校	Team しろやま
50		沖縄県	鏡が丘特別支援学校	琉球ミラーイーグルス

6 事業の成果と課題

新型コロナウイルスの影響で対面での大会実施が困難となったため、課題に挑戦するという形式で、オンラインでの実施に形を変えて大会を実施した。

各学校で取り組めるということで、北海道から沖縄まで全国各地からのエントリーがあった。オンライン方式での大会は、実際の試合と違い各学校で課題に取り組むということで、学校の負担も大きいところがあったが、各学校様々調整をして取り組んでいただいた。

エントリーは、48校50チームであったが、関東1都3県への緊急事態宣言発出のため部活動が禁止となり、5校6チームが棄権となった。

オンライン大会にすることにより、通常の大会のような対戦は出来なかったが、以下のようなメリットがあった。

- ① 各学校には、参加にかかる旅費の負担がなかったことで、参加しやすかったこと
 - ② コロナ禍でほとんどの大会や行事等が中止になる中、目標を見失いかけていた子どもたちに、目指す目標を持ってもらうことができたこと
 - ③ 学校内で取り組んでいただいたことで、子どもたちの頑張る姿を他の先生方や生徒の皆さんの目に触れることになり、大会参加についての理解やボッチャ競技に対する理解や関心が高まったこと
 - ④ そのことにより参加した子供たちが大きな自信を得ることになったこと
 - ⑤ 担当の先生たちが、指導から審判、運営までしなければならず、負担は大きかったが、競技に対する理解が深まったこと（特に競技規則に対する理解が深まった）
 - ⑥ 「課題に挑戦する」ということが、「自ら課題をもって練習に取り組む」ということにつながり、練習や学校生活において、子どもたちの自主性が高まったこと
- 以上のような多くのメリットがみられた。

多くの学校から「通常の形とは違うが、オンラインという形でも中止ではなく開催してくれてよかった。子供たちの成長する姿がみられて参加してよかった」というような感想が寄せられ、開催した意義は大きかったと感じている。

また、デメリットとしては以下のようなことがあった。

- ① 授業の中で取り組んだ学校や部活動として取り組んだ学校など、学校によって取り組みに違いがあったこと
- ② オンライン大会と言う初めての試みで、動画をクラウド上にアップするということがセキュリティ上難しい学校が多く、学校によっては手続きに時間がかかり負担が大きかったこと
- ③ 決勝大会が土曜日であったことで、学校の休日対応で手続きが必要な学校もあったこと
- ④ 決勝大会に進んでも、土曜日開催ということで緊急事態宣言下の学校は出られないという事態になっていたこと
- ⑤ クラウドにアップすることやWEB説明会など、学校側が慣れていないことが多く、負担が大きかったこと
- ⑤ 運営としては、オンラインでつないで決勝大会を開催したが、配信に際しては多くの経費が必要であったこと

以上のような点が挙げられる。

開催にあたり工夫した点は、以下通りとなる。

- ① 運営においては、専門の業者へ委託・連携により、予選会の実施から、学校と港区スポーツセンターをつないでの決勝大会、スポーツ庁長官、都知事のビデオメッセージ、ボッチャ日本代表および、代表監督からのメッセージ等、オンライン開催であつ

- でも、参加者の今後の競技意欲向上に十分繋がる大会となるように実施した。
- ② 決勝大会では、決勝戦に残った3校以外にも応援視聴できるように、エントリー校すべてに参加にかかるURLを送り、大会に応援参加できるようにした。
 - ③ 決勝大会では、通常の大会同様ゲストや司会を招き、実況や解説を入れながら行うことにより、映像が見にくくても状況が分かるようにした
 - ④ 大会の様子を見ているだけではなく、「参加型」になるように応援視聴している人向けのクイズを行ったり、応援参加に使用するスティックバルーンを送ったり、実際に会場で参加しているような形で、楽しく参加できるような工夫をした。
 - ⑤ オンライン説明会を行い、課題の定時方法や取り組み方の説明を行った。
 - ⑥ 課題取り組みに関しての各校からの質問を都度取りまとめ、すべての学校に共有した。
 - ⑦ 一般視聴もできるように、インスタグラムにてライブ配信を行った。

【決勝大会会場の様子】



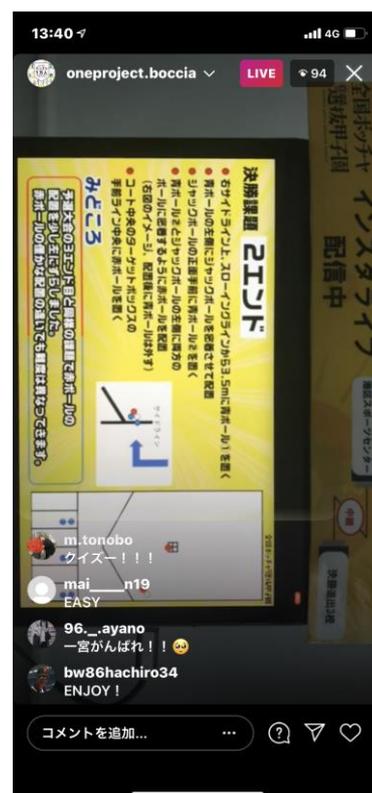
【各学校をつないで、オンラインテスト】



【ゲスト、解説席の様子】



【インスタグラムライブ配信の様子】



7 参加校数（応募校数）の推移

<第1回>

江東区 東京文化スポーツ会館（Bumbu）で開催。

参加校 22校で合同チームあり。チーム数では18チームの参加。

<第2回>

申し込みは前年を大幅に上回る36校であった。

1回戦からトーナメント戦にすることにより、申し込み全校を受け入れた。

港区 港区スポーツセンターで開催。

<第3回>

前回大会同様の36校の応募。第3回大会より、大会名を「全国選抜ボッチャ甲子園」と変更し、参加校を絞って開催。選考の結果、全24校で開催。

<第4回>

第3回同様36校の応募があったが、今大会より今まで参加がなかった地域（学校）から応募があった。前大会同様、選考の結果全24校で開催。

<第5回>

初のオンライン開催。エントリーしたすべての学校を受け入れて開催。北海道から沖縄まで全国各地からエントリーがあった。48校50チームがエントリー。

予選を経て、決勝大会は各学校と港区スポーツセンターをオンラインでつないで開催。

8 今後の方向性

今回初めてオンラインという形で開催をしたが、エントリーのしやすさから過去最多の申し込みがあった。また、「課題に挑戦する」ということが教育的意義も大きく、参加した子どもたちにとっては、自主性が育まれ、競技力向上につながる大会となった。

協会としても新たな取り組みであったが、今大会を開催できた意義は大きく、この経験を今後の大会運営に大いに生かした運営をしていきたい。

この大会は、学校側に協力していただくことも多かったが、学校全体の理解や担当教諭のルール理解、子どもたちの自主性や競技力の向上など、メリットも多かった。

学校によっては、地元テレビ局や新聞社の取材、町の教育長の激励訪問などもあり、子どもたちの挑戦を、地元や学校全体が応援してくれる雰囲気となったことで、競技そのものの認知度の向上にもつながった。

今後も、スポーツ庁、東京都、学校や地域社会、各県の教育委員会との連携で、より社会的意義のある大会にしていきたい。